

平成 28 年度 第 1 回 海老名市にぎわい振興審議会 会議録

日時等	平成 28 年 7 月 8 日（金） 13：00～15：00 政策審議室		
議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海老名市にぎわい振興条例について&lt;報告&gt;</li> <li>・えびな元気にぎわい振興計画（案）について&lt;諮問&gt;</li> </ul>		
出席委員	羽田会長、三田副会長、並木委員、尾崎委員、澤地委員、門脇委員、長委員、半澤委員、伊藤委員、遠藤委員 計 10 名		
公開の可否	公開	傍聴者数	0 名
幹事	都市経済担当理事 畑 経済環境部長 清田 経済環境部次長 石井 商工課長 中込		
事務局・説明者等	にぎわい振興係：主査 立花、主事 三坂		
結果	諮問事項 えびな元気にぎわい振興計画（案）について 結論：原案のとおり了承		

案件

・えびな元気にぎわい振興計画（案）について<諮問>

委員：既に実施している事業もあるようだが、その結果がわかる資料を次回の審議会ですぐにいただければ、今後に向けての課題などが話し合える。

事務局：次回(10 月予定)の審議会の際、実施した事業の結果やこれから実施する予定の事業について資料を作成し、審議会でのご意見をいただけるようにしたい。

委員：市としての評価はどのように行うのか。どう集めて、集まった方々をどこへ案内するのか。西口のにぎわいを市全域へ広めるのが課題だ。商業だけでなく、市の産業全体が、潤うことが重要である。

事務局：市としても、同様に考えている。今年度、市内を回遊するツアーを実施しているのので、次回の審議会に、その結果を示したい。公共交通機関の利用者等、人の流れがわかるような資料を、本審議会へ示したい。

委員：「選択と集中」が重要である。大きな売りになるものを発掘し、集中し、PRするのがよい。各分野の連携がストーリーとして必要になる。偉人など、知らない人もいるだろう。

委員：計画の中心が見えづらいという印象。何に向かって、にぎわいなのか。海老名駅に集まる人をどう市内に波及させるかが重要。

委員：計画には、十分な事業が盛り込まれている。にぎわいの共通指標は、だいた

い人数やお金になるようだ。現在の計画書は、行政側の区分になっているが、「訴求対象＝ターゲット」ごとに整理をする方法もある。ターゲットをまとめると、プロモーションが効率よく、コストも下げられる。

委員：訴求対象や誘致策を考え、インパクトの強い事業を整理するのもよい。

事務局：各事業を進めながら、委員の皆様からのご意見やアドバイスも反映させていき、「もう一度来たい」と思っていただけ的状况を作りたいと考えている。

委員：にぎわいを魅力あるものにするため、経済的な潤いに加えて、文化の色合いもほしい。

事務局：文化関連の所管とも連携して、事業を進めていきたいと考えている。

委員：大型店では、ターゲットとなる客層や年代を考えていて、素晴らしいと思う。ブックカバー広告事業は、メインとなるものを決めてから始めてもよいのではないか。

委員：メディアの使い方が重要。見たくなくても目に入るような仕掛け、例えば、テレビ番組のコーナーを利用するなどが考えられる。

委員：最近聞いた話で、市内のレタス栽培は、マッカーサー元帥が来日の際、生野菜がほしいということで、生産が始まったという話があった。栽培農家は知っていても、発信しないとわからない情報もある。内部での情報の吸い上げも大事。

事務局：行政は知らせたいことはPRするが、相手がほしいものをPRすることが、あまり得意ではないので、今後は、受け取る方がおもしろいと思っただけのものを発信していきたい。

委員：計画全体は、総花的で、多くの事業があるため、強弱を意識してやるのは仕方がないと思う。この審議会では、この計画をチェックする立場になる。農商工が連携し、さらに団体や市民も一緒に総力戦で取り組む必要がある。商工会議所が策定予定のビジョンは、この計画とも方向性を一致させたい。

委員：今後、事業を具体的に進めるには、力を入れるべきものを選択する必要がある。行政内部だけでなく、各分野との連携を意識し、また、ターゲットを絞り、効果的に展開するのが大事である。

以上